

1 3 循環器科フェロー研修要綱

指導責任者 安田 和志

1. 施設認定
 - (ア) 日本小児循環器学会認定修練施設
 - (イ) 日本胎児心臓病学会 胎児心臓超音波検査専門施設
 - (ウ) 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会 経皮的動脈管閉鎖セット使用施設
 - (エ) 成人先天性心疾患専門医修練施設
2. スタッフ
 - (ア) 常勤医 8名 (日本小児循環器学会専門医 5名)
 - (イ) 非常勤医 2名
3. 症例数 (2019年)
 - (ア) 外来患者数 4514人/年
 - (イ) 入院患者数 681人/年
 - (ウ) 新患者数 288人 (外来) /年
 - (エ) 心エコー 6045件/年
 - (オ) 心臓カテーテル 350件/年
 - (カ) カテーテル治療 135件/年
 - (キ) ホルター心電図 493件/年
 - (ク) 運動負荷心電図 74件/年
4. 主な診療内容
 - (ア) 先天性心疾患の診断、薬物治療、カテーテル治療、周術期管理
 - (イ) 不整脈の診断、薬物治療、カテーテル治療
 - (ア) 後天性心疾患の診断、治療
5. フェロープログラム

いずれのコースも、6の目標項目を目指してトレーニングを行う。

 - (ア) 1年コース
 - (イ) 2年コース
6. 研修の目標
 - (ア) 先天性心疾患の診断
 - ① 肺血流増加性心疾患、肺血流減少性心疾患、動脈管依存性心疾患などにおける血行動態を理解すること。
 - ② 基本的な心疾患に対し、身体所見、心電図、X線写真、および心エコーによる診断ができること。
 - ③ 基本的心疾患におけるカテーテル検査を行い、診断および病態評価ができること。
 - (イ) 先天性心疾患の治療
 - ① 血行動態に応じた術前管理ができること。

- ② 循環器系薬剤の薬理作用や特徴を理解し、使用できること。
- ③ カテーテル治療について、治療全体における役割を理解し、基本的な操作ができること。
- ④ 内科的診断・治療と外科治療との関係について、理解すること。

(ウ) 不整脈の診断

- ① 標準12誘導心電図の特徴について理解し、診断ができること。
- ② ホルター心電図、負荷心電図の適応、診断ができること。
- ③ 治療を要する不整脈の病態について理解すること。

(エ) 不整脈の治療

- ① 抗不整脈薬について、基本的な作用機序、適応疾患、投与方法、副作用について理解し、使用できること。
- ② カテーテルアブレーションについて、心腔内心電図の読影、アブレーションの基本原則とその方法について理解すること。

(オ) 後天性心疾患の診断、治療

- ① 川崎病における心合併症について、危険因子、検査について理解し、治療できること。
- ② 心筋炎、心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症、拘束型心筋症等）の早期診断、心危険因子、生活管理予後、薬物治療、補助人工心臓装置、心臓移植について理解し、内科的治療ができること。

(カ) プレゼンテーション

循環器疾患について、症例あるいは疾患群について検討および評価を行い、その結果をまとめて症例検討会や学会で発表できること。それらを日本語あるいは英語で論文にまとめることも目指す。